



# British Politics Today

2012年11月1日  
第1巻 第10号

著者 菊川智文,

www.Kikugawa.co.uk  
tomo@kikugawa.co.uk

## この号の内容

- 1 はじめに
- 2 運輸省の大失敗
- 3 道州制構想への疑問
- 4 現代政治家に影響を与えた人
- 5 英国から見た日本

英国の鉄道営業権の入札が1990年代半ばに始まった時には1入札あたりの平均費用は50万ポンドだったが、作業が複雑となり、今回バージンでは1400万ポンドかかっている。

## 1. はじめに

英国では夏時間が終わってグリニッジ標準時となり、日本との時差は8時間から9時間になりました。主要政党の党大会が10月上旬に終わりました。そこで話されたことは、1週間もすれば忘れられてしまうとよく言われます。ところが野党労働党のミリバンド党首が高く評価されたスピーチを行い、その余波はその後の首相のクエスチョンタイムに出ています。自信満々で驚くべき変貌を遂げたといえます。

## 2. 運輸省の大失敗

運輸省が鉄道営業権の入札過程で大きな失敗をしていたことがわかりました。運輸大臣が8月、ウェスト・コースト本線(ロンドンからバーミンガム、マンチェスターを経て、スコットランドとつなぐルート)の今後13年間の営業権の落札者を発表していましたが、このためにその決定を破棄しました。

優先入札者に指定された4社から落札者を選ぶ際に使われたモデルに瑕疵があったためです。将来のインフレをきちんと考慮に入れていなかったといわれます。この結果、4社が入札に使った費用補填のため4千万ポンド(52億円)が支払われます。その上、落札者に決まっていた会社の株式が一举に20%も下落しましたが、その損害賠償請求の可能性もあります。さらに他の路線の営業権の入札も見直されることになりました。また、運輸省の将来見通しのデータへの信頼性が揺るぎ、それを基に投資している投資家などから損害賠償請求が出てくる可能性も指摘されています。

現在この路線の営業権を持つバージン・トレインズが、他の会社が落札者となった決定はおかしいと裁判所に司法審査を求めたため、運輸省がその準備中に問題がわかりました。運輸省は決定を破棄した上、関係の3名の職員を停職とし、この入札過程で何が起きたか、さらに営業権入札過程全般の取調べを開始しました。この3名の職員は日本で言えば、部長、課長らです。ところが、この部長(銀行家から国家公務員となった人物)が、自分はその営業権入札の責任者ではなく、そのモデルも知らないと公に発表し、問題はかなり複雑になっています。

10月末に取調べの中間報告が出ました。運輸省の担当者らは、内部のモデルの不備を知っていたけれども、それを使うことにしたそうです。その他、この入札の責任者が誰かはっきりしていなかったこと、大幅な財政削減の中で、スタッフの数が減り、また組織替えなどで担当者には低いランクの人や経験不足の人が多かったそうです。

大臣や担当閣外大臣は、省内のスタッフからしっかりと検証された決定だと重ねて保証されており、そのように公で発言していました。運輸省の事務次官は、これは完全にスタッフの問題だとして、大臣には責任がないとし、大臣に謝罪しました。キャメロン首相もその立場を取っています。野党労働党は大臣がサインした以上責任があると主張していますが、いずれにしてもこの件は、政府の度重なるUターンの一つとなり、キャメロン政権をさらに傷つけた問題となりました。

### 3.道州制構想への疑問

日本では道州制の導入をマニフェストに入れる考えの政党があるようです。しかし、道州制は本当にそんなにいいモノでしょうか？



スコットランドの  
オークニー諸島を臨む

英国では、ブレア労働党政権でスコットランドとウェールズの地方分権を行いました。住民投票後、それぞれの議会が開かれたのは 1999 年です。スコットランドは、スコットランド人としてのアイデンティティが強いため、当然の成り行きと見られました。むしろこれは、独立の機運が強くなりすぎるのを防ぐための一種のガス抜きと考えられていました。ウェールズもウェールズ人としての独自性が強く、ウェールズ語が英語と並んで公用語となっています。それでもウェールズの住民投票では、賛成 50.3%、反対 49.7%で、かろうじて賛成多数で分権に進むことになりました。

ブレア政権では、さらに人口の 84%が住むイングランドを分割した分権を図りました。手始めにイングランドの東北地区で住民投票を行ったところ、77.9%もが反対しました。このため、分権は無理とし、予定していた他の住民投票を中止しました。

日本では、道州制を導入すれば日本はよくなるという発想があるかもしれませんが。本当にそうでしょうか？スコットランドでは、スコットランド独立を謳って設立されたスコットランド国民党(SNP)が議会の過半数を握り、政権を担当しています。第一首相アレックス・サモンド率いる、左寄りの SNP 政権は優れた手腕を発揮しているといわれ、高い評判を得ています。SNP は中央政府と交渉し、2014 年秋にはスコットランドの英国からの独立をめぐる住民投票を実施することになりました。

スコットランドは 1999 年分権議会発足後 13 年経ちますが、分権によるはっきりした経済的メリットが出ていません。スコットランドの課税権限には制限がありますが、中央政府から有利な補助金を受け、住民一人当たりの財政支出は、2010-11 年で英国平均より 13%上回り、福祉関係費もイングランドより 11%も高く、大学授業料は無料です。財政的にはかなり優遇されていると言えます。しかし、未だに 1980 年代の景気後退などで受けた大きな打撃から抜け切れていません。エディンバラで伸びていた金融セクターも、信用危機で大きな打撃を受け、地元大手の二つの銀行が中央政府から救済される事態となりました。

スコットランドの分権の経済的メリットについては幾つもの研究がありますが、ほとんどないというのが結論です。それらの一つである左記の論文では、一般的に、地方分権には、経済的な便益があると政府も国際機関も考えがちだが、実際的な証拠が乏しいと指摘しています。

スコットランドでもウェールズでも住民投票の際によく使われた議論の一つは、地方分権すれば、経済的な配当があるということでした。しかし、これは実現されていません。むしろウェールズでは、議会の設けられたカーディフがよくなっただけで、以前より悪くなったと言われます。

道州制にすれば経済メリットがあり、うまくいくと考えがちかもしれませんが。しかし、道州制も、あくまでも一つのツールであって、そのツールを使って地域を発展させていけるかは全く別の問題です。ウェールズの例で見られるように、既に繁栄している地域はますます栄え、そうでない地域は、さらに悪化する可能性があります。

一方、道州制のコストの問題もあります。実施や人員削減にかかる費用、時間、さらに行政上の混乱など多くの問題があります。新たな役所や議会建設費用も必要かもしれません。道州制を本当に行う価値があるか慎重に見極める必要があるでしょう。

<http://eprints.lse.ac.uk/33560/1/sercdp0062.pdf>

## 4.現代政治家に影響を与えた人

### 祖母

ジョージ・オズボーン財相（1971年5月23日生）は、2010年5月、キャメロン政権発足とともに39歳で財相に就任しました。1886年以来最も若い財相です。オズボーンは、セント・ポールズ・スクール時代に政治家を目指し「首相になれなければ外相になりたい」と言ったといわれますが、これには、少なからず母方の祖母の影響があるようです。

母方の祖母クラリス・ロックストーン＝ピーコック（1924年5月7日－2004年7月24日）は、ハンガリー生まれの画家です。家族とともに英国へ渡ってきて、英国で中等・高等教育を受けました。1956年にハンガリー動乱が起き、多くのハンガリー難民が英国にきましたが、これらの人たちが祖母の家に集まってきたそうです。オズボーンの下院最初の演説で、この祖母の話をしています。そして「政治的なシステムを、それを受け入れたくない人たちに押し付けてはいけない、統治する者と統治される者の隔たりを生むようなことを許してはならない、そして人々の声を聞くことを止めるわけにはいかない」と言いました。この祖母は非常に知的で、少なからず政治的な影響力を発揮した熱情的な人物であったようです。

テムズ川からセント・ポールズ大聖堂を臨む



#### 雑記

英国の総選挙で有権者がどの党に投票するかを決めるには通常3つの要素があると言われています。党首、マニフェストそして党のイメージです。キャメロン首相の保守党は、野党第一党の労働党に世論調査の支持率で現在10ポイントほど離されていますが、キャメロンと労働党党首のミリバンドの個人の支持率ではキャメロンの方が上回っています。これがキャメロン周辺に一種の希望をもたらしていました。

次の総選挙は2年半先ですが、有権者は最終的に首相としてキャメロンとミリバンドのどちらがふさわしいかどの党に投票するか決めると考えていたからです。この戦略の基礎は、ミリバンドが労働党の党首選挙で本命だった兄を破り、予想外の勝利を勝ち取ったことにあります。ブレア元首相に近かった兄を警戒した労働組合がミリバンドを強く推したための結果でした。それ以来、ミリバンドは、その鼻にかかる声とアニメのウォレスとグルミットのウォレスのような茫洋とした容顔で、頭はいいが党首の器ではないと広く信じられていました。つまり、有権者はミリバンドを信頼できないだろうと考えていました。

このシナリオが大きく狂いました。労働党の党大会での素晴らしいスピーチでミリバンドへの評価が一変したからです。世論調査では、未だにキャメロンがリードしていますが、政治コメンテーターたちの見方が変わりました。首相のクエスチョンタイムの質問でも、ミリバンドは自信に満ちており、前回には質問を「楽しんでいる」と言いました。この言葉を聞いて同じことを言ったサッチャー元首相の最後の首相のクエスチョンタイムを思い出しました。

なお、英国では、党首が選挙に出なければ話になりません。有権者もそれぞれの政党の支持者も党首を首相にするために投票するのが基本だからです。

## 4 政治家に影響を与えた人(続)

### 父

デービッド・キャメロン首相は、10月初めの保守党の党大会で、自分の父イアンのお話をしました。身体障害を持つ父から楽観主義を学んだそうです。キャメロンの父は生まれつき脚の膝より下に障害があり、膝より上だけを見ると身長 190 センチ近い大男に見えたが、実際の身長はそれより 30 センチほど低かったそうです。足の指やかかとも障害がありました。それでも決してそれを理由に引き下ろうとはせず、常に前向きに生きた人物だったと言われます。

### 両親と祖父母

労働党党首のエド・ミリバンドの母はポーランドで生まれたユダヤ人、父はベルギーで生まれたポーランド系のユダヤ人です。母は、ドイツ軍占領下のポーランドで、多くのポーランド人にかくまわれ、ホロコーストで殺されず生き延びました。ミリバンドの兄デービッドが、ブラウン労働党政権の外相として、ポーランド人に母を救ってくれたことを感謝したことがあります。父親も祖父と一緒にドイツ軍から逃れて英国に来ました。父方の祖母と叔母は、大戦中、フランスの農家でかくまわれました。



ウィンブルドンパークのレイク

## 5. 英国で報道された日本

### ① 大震災復興費の流用

復興費の 4 分の 1 もが、震災復興とは全く関係のない事業に使われていた。はるかに離れた沖縄の道路建設や捕鯨調査補助、東京スカイツリーの宣伝費など多岐にわたる。しかしながら震災から 19 か月経った今も再建作業がほとんど始まっていない所もある。

BBC の記者は、日本ではこのニュースを聞いてあまり騒ぎ立てないのに驚いたと言う。米国や英国で同じようなことがあれば、大変な騒ぎになっていたであろうという。

日本人はこれまでの経験から政治家にはほとんど何も期待できないことを知っており、この期待を裏切られることはほとんどないと言う。何世代にもわたって日本の政治は利益誘導型で、「津波資金」の濫用はその典型だとコメントした。

### ② 日立が英国の原発プロジェクトを買収。

日立が 67 億で原発プロジェクトを買収。1 万 2 千人以上の雇用が生まれると言う。10 月 31 日キャメロン首相が首相のクエスチョンタイムでこの買収に触れた。

### ③ 石原都知事が都知事を辞職し新党結成へ

元作家の石原慎太郎都知事(80)が 4 期目の途中で突然辞職した。尖閣諸島購入をししかけ、中国との関係悪化のきっかけを作るなど、議論を呼ぶコメントをすることで有名。中央政府の官僚支配を変える必要があると主張した。

### ④ 新法相

就任したばかりの法相が組織暴力団との関係で法相を辞任し、新法相が任命された。

菊川智文

英国政治アナリスト

京都大学法学部、松下政経塾卒

英国スターリング大学 PhD

著書「英国政治はおもしろい」(PHP)

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み : tomo@kikugawa.co.uk